

## CAD 製図基準アシスト T2 操作方法

「CAD 製図基準アシスト T2」は既存図面を CAD 製図基準(案)に沿った図面であることをチェックし、修正します。「CAD 製図基準アシスト(注)」と併用して操作します。5 つの操作方法から成り立っています。

- 1.レイヤ編集 レイヤ名を修正します。
- 2.レイヤ振分 CAD 製図基準(案)に従って要素をレイヤ移動し、線種、線色、線幅も変更します。
- 3.図面チェック CAD 製図基準(案)に従って描かれているか調べます。また修正も行います。
- 4.図面比較 2 つの図面を比較し、その差(追加・削除・変更されたデータ)を表示します。
- 5.テンプレ編集 「CAD 製図基準アシスト」図面を編集し、オリジナルのアシスト図面を作成します。

(注)CAD 製図基準アシスト・・・CAD 製図基準(案)に沿ったレイヤ名・線種・線色・線幅が設定されたテンプレート集

### 1 レイヤ編集

レイヤ名を修正します。

#### ●コマンドの選択(レイヤ編集)

[システム]—「システムファンクション」  
—「レイヤ編集」を選択します。



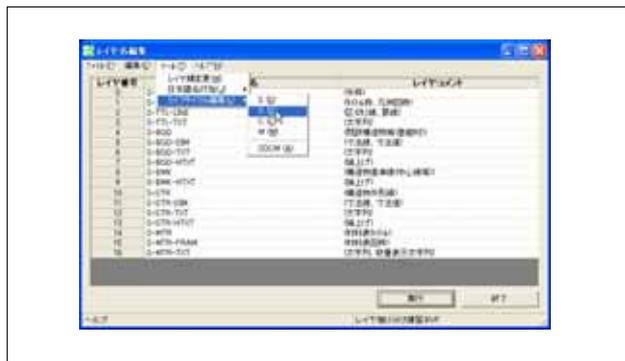
#### ●レイヤ名を編集します

「レイヤ名編集」ダイアログボックスが表示されます。  
レイヤ名をダブルクリックするとレイヤ名を編集できます。



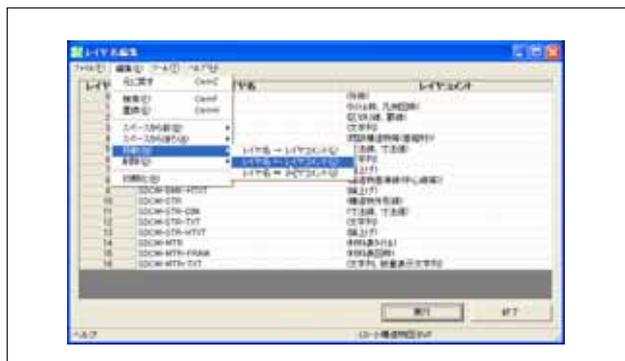
#### ●ライフサイクルの編集

[ツール]—「ライフサイクル編集」で S、D、C、M いずれかを選択します。一括で修正します。



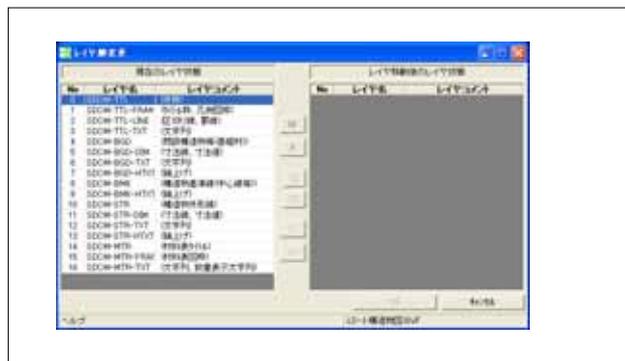
#### ●レイヤ名の一部を編集します

[編集]—「移動」でレイヤコメントをレイヤ名に移動、または[編集]—「スペースから後ろ」でレイヤコメントへ再び移動することが可能です。



### ●レイヤ番号を変更します

[ツール]－「レイヤ順変更」でレイヤ番号を入れ替えることができます。



### ●終了します

[ファイル]－「名前を付けて保存」で名前を付けて保存します。

[ファイル]－「終了」をクリックし、終了します。



## 2 レイヤ振分

既存図面を CAD 製図基準(案)に従って要素をレイヤ移動し、線種、線色、線幅も変更します。

「CAD 製図基準アシスト」にあるアシスト図面を読み込み、そこに記録されている設定に従って要素の振り分けを行います。

### ●コマンドの選択(レイヤ振分)

[システム]－「システムファンクション」

－「レイヤ振分」を選択します。

すでに図面が表示されている場合、  
下図のメッセージボックスが表示されます。

「はい」を押してください。

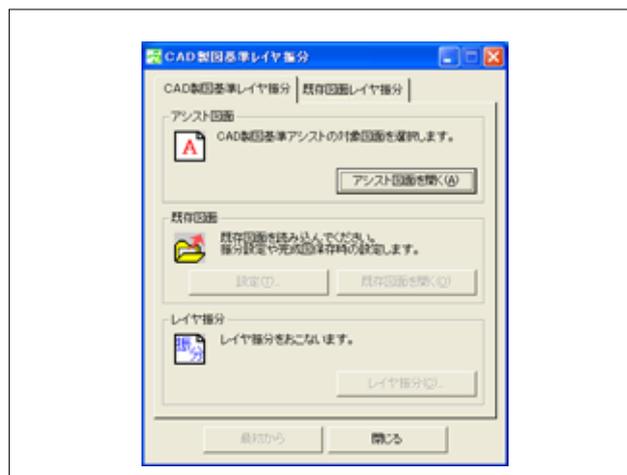


図面が何も表示されていない場合は、このメッセージは表示されません。

### ●「レイヤ振分」を起動します

「CAD製図基準レイヤ振分」ダイアログボックスが表示されます。

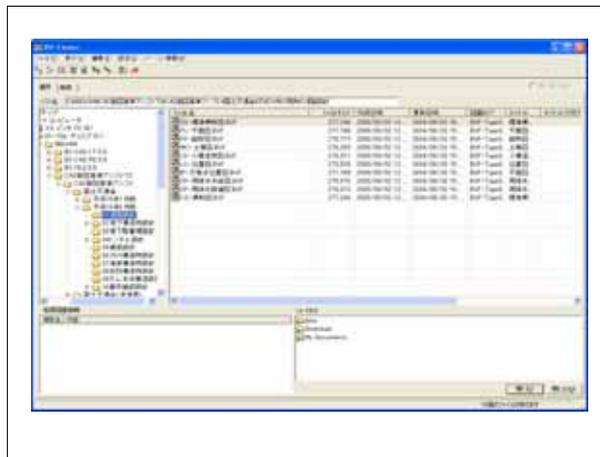
「アシスト図面を開く」ボタンを押してください。



●「アシスト図面を開く」にてアシスト図面を開きます

「BV Finder」が起動します。本工事に該当するアシスト図面を選択し、「開く」をクリックします。

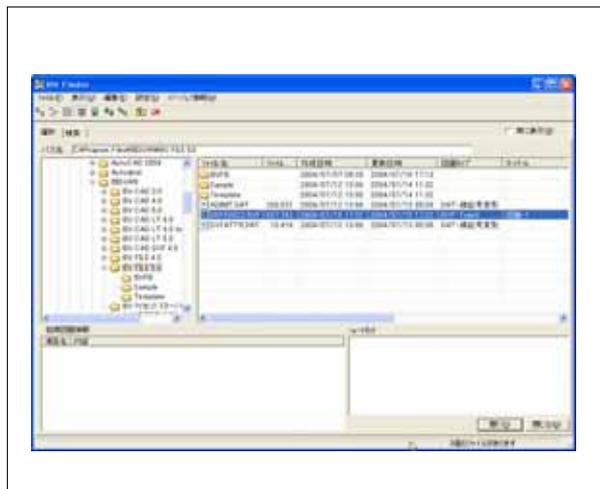
アシスト図面は通常“C:\BIGVAN\CAD 製図基準アシスト T2\CAD 製図基準アシスト”以下のフォルダにインストールされます。



●既存図面を開きます

「既存図面を開く」ボタンを押します。

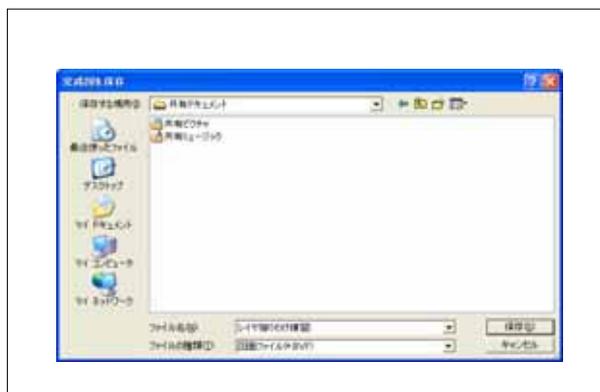
再び「BV Finder」が起動します。当該工事を選択し、「開く」ボタンを押します。



●完成図面を保存します

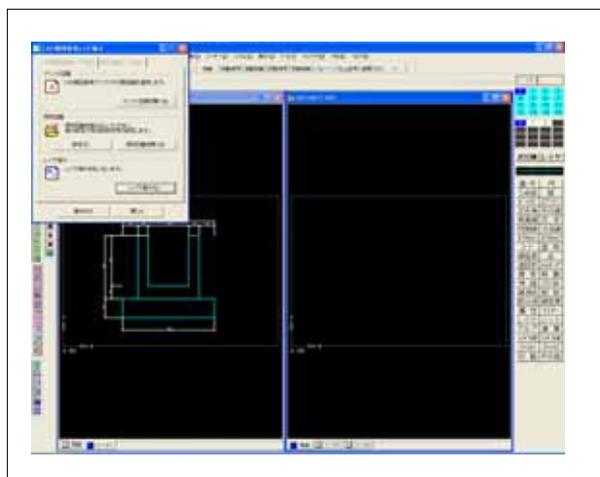
これからレイヤ振り分けされる新規図面に対し、名前を付けて保存します。

「ファイル名」の記入欄にファイル名を記入して「保存」ボタンを押します。



●画面が左右に並びます

振分対象となる図面(移動元)が左側に、新規図面(移動先)が右側に並びます。



### ●設定を行います

「設定」ボタンを押し、各種設定を行います。

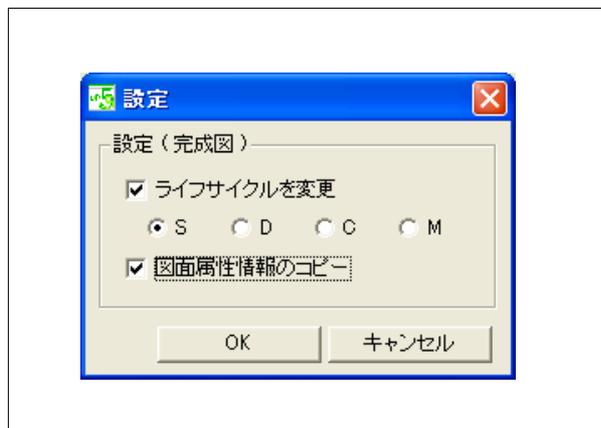
#### \*「ライフサイクルを変更」

レイヤ名のライフサイクルを変更します。

S=測量、D=設計、C=施工、M=維持管理

#### \*「図面属性情報のコピー」

BVF ファイルに記録されている図面属性情報を新規図面にも反映するかどうか設定します。



### ●レイヤ振り分けを行います 1

「レイヤ振分」ボタンを押します。「レイヤ選択名」ダイアログボックスが開きます。

「ペン設定」でチェックを入れた項目が CAD 製図基準(案)に沿った線種、線色、線幅に変更され、新規図面に移動します。

「拡張」は寸法線レイヤ以外に寸法線を振り分けた場合、寸法線はそのレイヤの線色に変更されます(文字も同様)。

「元図を残す」にチェックを入れると移動変更ではなく複写変更となります。

文字高補正にチェックを入れると文字高さを整数値に変更します。

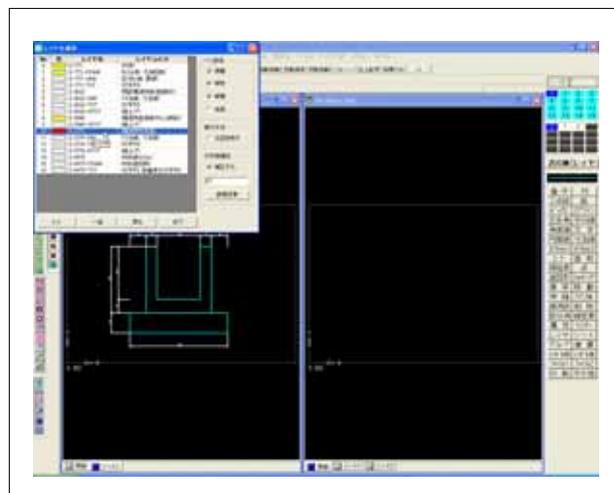


### ●レイヤ振り分けを行います 2

移動元のシートと移動先のシートは同じシート番号に合わせてください。

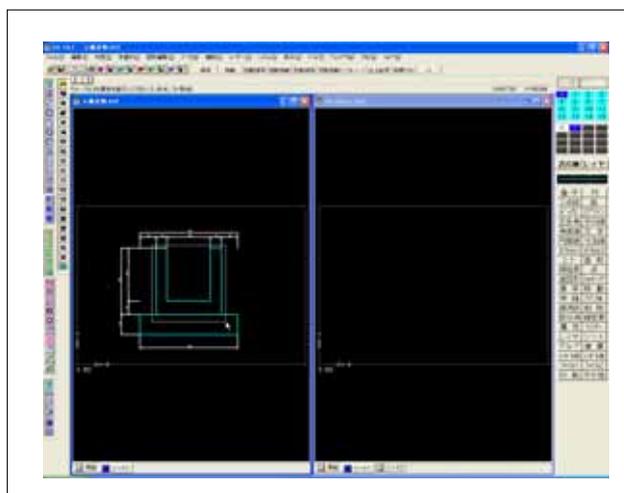
レイヤが表示層、非表示層の場合はサーチ層にしてください。

移動を行いたいレイヤ名をダブルクリックします。

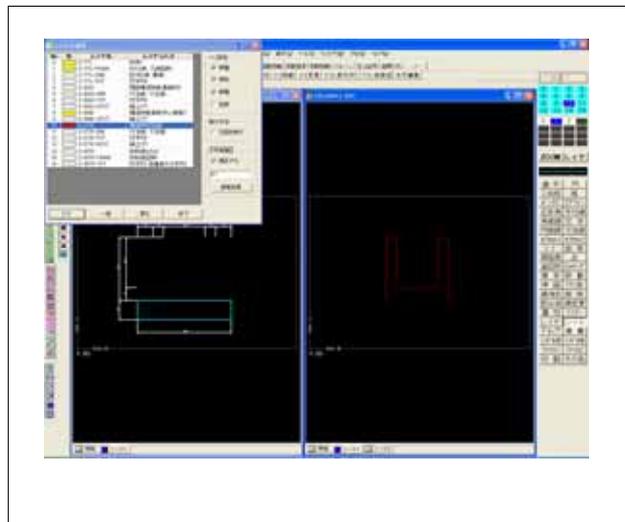


### ●グループ化を行います

既存図面の必要な要素に応じてグループ化を行います。グループ化が終了したらサブメニュー欄の「OK」ボタンを押します。

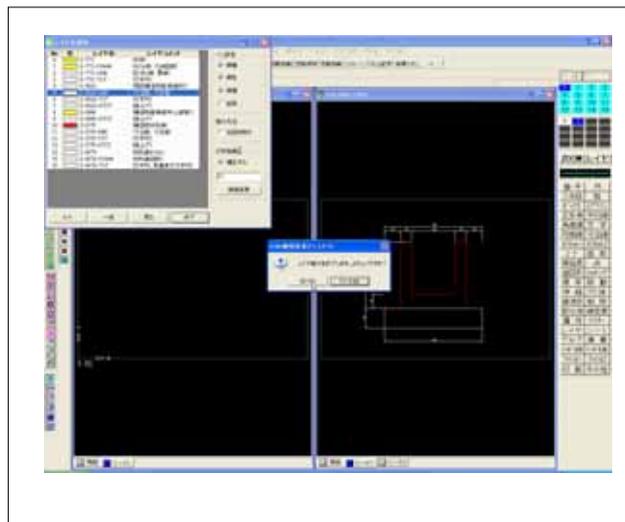


CAD 製図基準(案)に沿ったレイヤ、線種、線色、線幅に変更し、新規図面に移動します。  
すべての図形に対して同じ操作を繰り返してください。  
※アンドゥ(やり直し)は効きませんので操作にはご注意ください。



### ●終了します

「終了」ボタンを押すと、「レイヤ振分を終了します。よろしいですか?」と聞いてきますので、「はい」を押します。  
続けて「上書き保存しますか?」と聞いてきますので、「はい」を押します。  
「CAD 製図基準レイヤ振分」ダイアログが表示されます。  
「閉じる」ボタンを押して終了します。

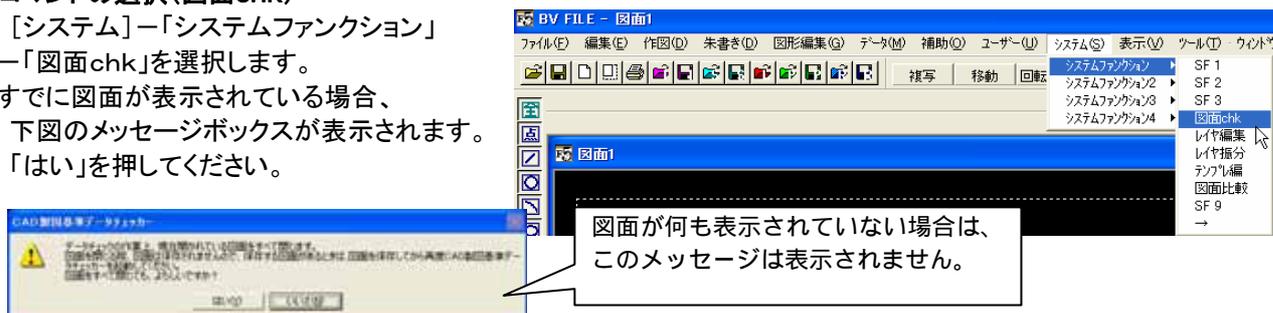


### 3 図面チェック

既存図面が CAD 製図基準(案)に従って描かれているかを調べます。また修正も行います。  
アシスト図面を読み込み、そこに記録されている設定と比較した結果を表示します。

#### ●コマンドの選択(図面chk)

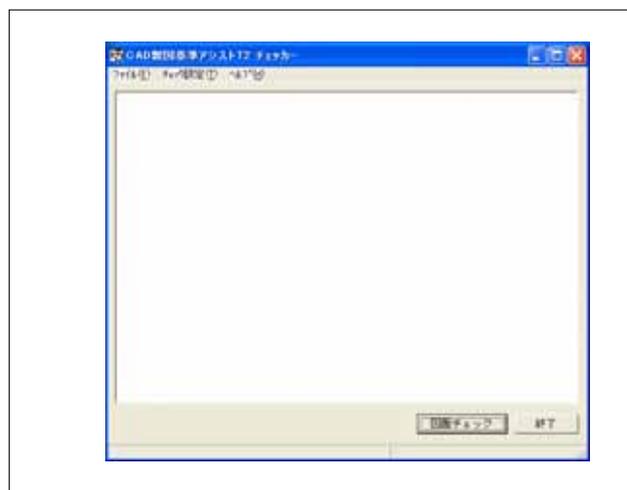
[システム]—「システムファンクション」  
—「図面chk」を選択します。  
すでに図面が表示されている場合、  
下図のメッセージボックスが表示されます。  
「はい」を押してください。



#### ●「図面chk」が起動します

「CAD製図基準図面アシスト T2 チェッカー」ダイアログボックスが表示されます。

「チェック設定」で各種設定ができます。  
(各設定については、CD-ROMの"README"フォルダにリファレンスマニュアルがありますので、そちらを参照してください。)

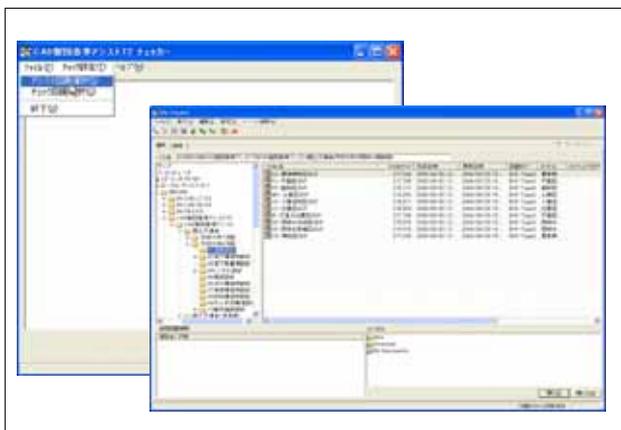


### ●アシスト図面を開きます

[ファイル]—「アシスト図面選択」をクリックすると「BV Finder」が起動します。該当アシスト図面を選択し [開く] ボタンを押します。

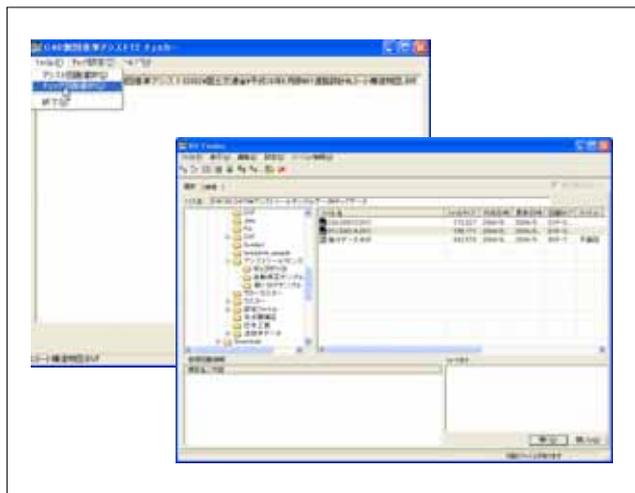
アシスト図面は通常“C:\¥BIGVAN¥CAD 製図基準アシスト T2¥CAD 製図基準アシスト”以下のフォルダにインストールされます。

※複数のアシスト図面を選択することもできます。



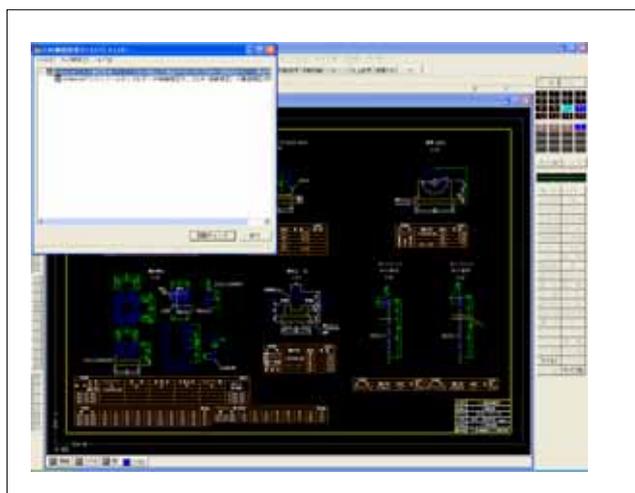
### ●チェック図面を開きます

[ファイル]—「チェック図面選択」をクリックすると「BV Finder」が起動します。チェックする図面を選択し、 [開く] ボタンを押します。



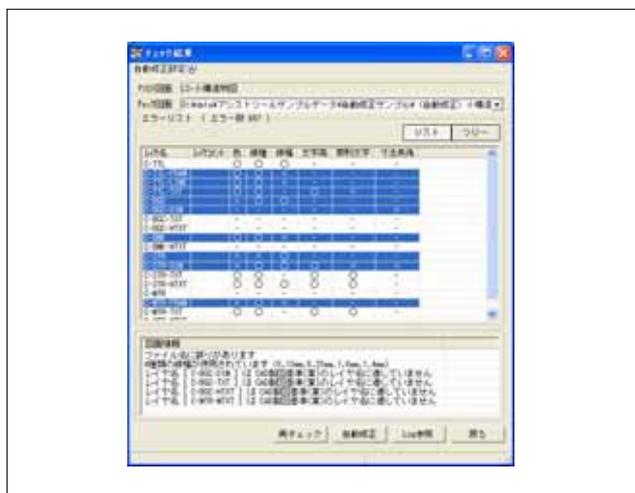
### ●図面データのチェックを開始します

チェックする図面が表示されます。  
 [図面チェック] ボタンを押すと、チェックが開始されます。



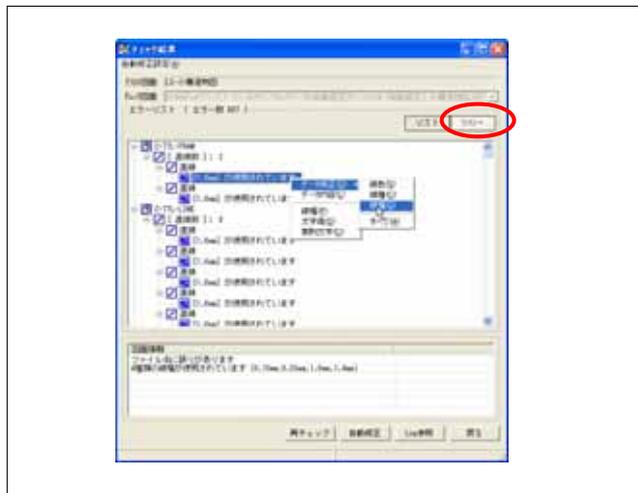
### ●チェック結果を表示します

青く反転されている行が CAD 製図基準(案)に則していないデータ(×印)が存在するレイヤです。  
 図面情報欄にはファイル名、レイヤ名、図枠等に関するチェック結果を表示します。



### ●不適切とされる箇所を確認・修正していきます

チェック結果の内容を確認しながら図面の修正を行います。  
「ツリー」ボタンを押します。個々のエラー箇所がツリー状に表示します。  
問題の箇所を右クリックします。図面が問題の箇所に移動します。  
「データ修正」をクリックし、個別に修正します。  
「データ内容」をクリックするとそのエラー箇所に関する詳細データを表示します。

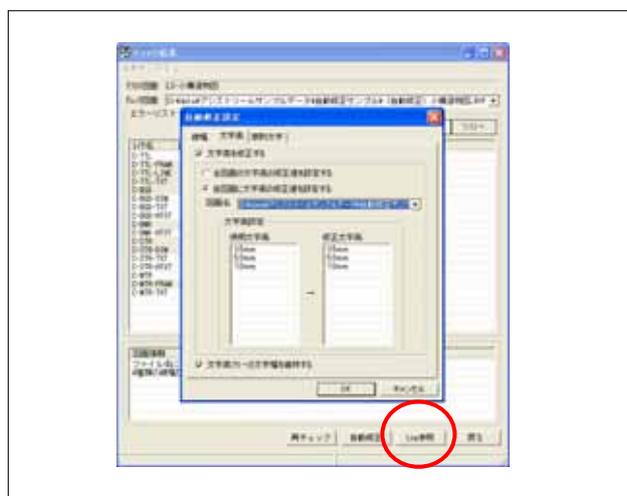


### ●一括修正をおこないます

修正箇所が多いと、前述の修正方法では時間がかかります。一度に修正を行うことができます。

「自動修正」ボタンを押します。  
「自動修正設定」ダイアログが表示されます。各設定を行った後、「OK」ボタンを押します。一括修正されます。  
(各設定については、リファレンスマニュアルを参照してください)

すべて修正されるとは限りませんので(ファイル名の不平等)、残りのエラーについてはアシスト T2 を終了し、CAD 操作に戻って修正を行ってください。



### ●終了します

「戻る」ボタンを押します。最初の画面に戻ります。  
「終了」ボタンを押します。「はい」を押して終了します。



## 4 図面比較

2つの図面を比較し、その差(追加・削除・変更されたデータ)を表示します。

### ●コマンドの選択(図面比較)

[システム] - 「システムファンクション」  
- 「図面比較」を選択します。



### ●図面データのパスを入力します

対象データ、比較データのパスを入力します（現状は SCF, P21 データのみです）。

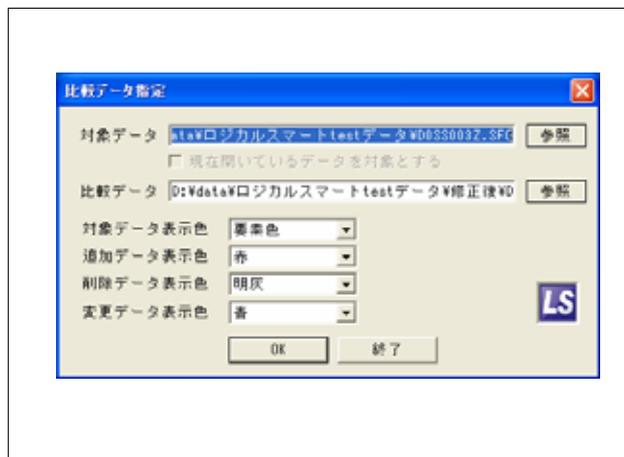
比較後、差分データ(SFC)を出力しますが、その際の色を指定します。

対象データ表示色：差分データ出力時の色

追加データ表示色：比較データにて追加されたデータ色

削除データ表示色：比較データにて削除されたデータ色

変更データ色：対象、比較データ双方で異なるデータ色



### ●図面比較を行います

「OK」ボタンを押します。図面比較が行われます。

結果を表示します。同時に「比較結果確認」ダイアログボックスが表示されます。

対象・追加・削除・変更データが上記設定の色で表示されます。

チェックをはずすとそのデータ色が非表示になります。

「他のデータを比較する」を押すと、「比較データ指定」に戻ります。

「終了」ボタンを押すと終了します。



### ●結果をファイル出力します 1

「ファイル出力」ボタンを押します。

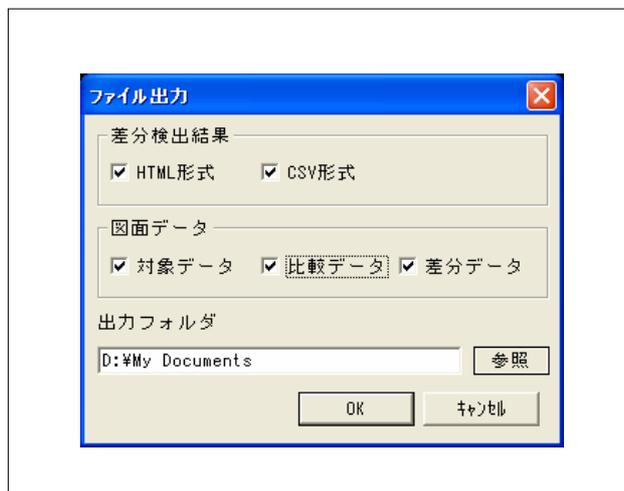
差分検出結果、図面データの出力方法を設定します。

差分検出結果：差分結果の出力形式

図面データ：差分等を SFC として出力

「出力フォルダ」にて出力先を指定します。

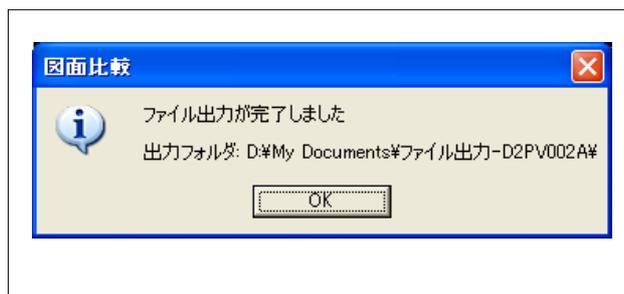
「OK」ボタンを押すとファイル出力します。



### ●結果をファイル出力します 2

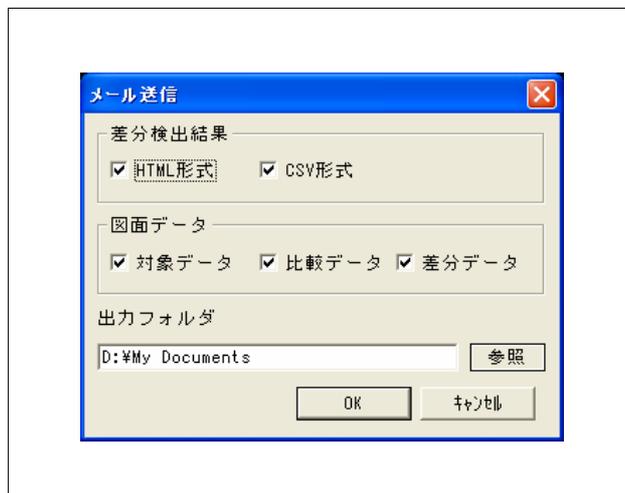
出力フォルダ先に「ファイル出力-(比較データ名)」フォルダが作成されます。その中に上記データが保存されます。

「OK」ボタンを押します。



### ●メール送信します 1

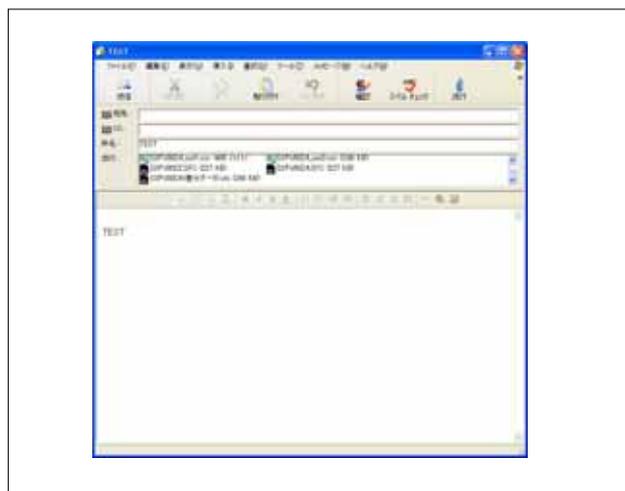
比較後、「メール送信」ボタンを押します。  
送信するためにはファイルを作成しなければならないので、前述の通り、差分検出結果、図面データの出力方法、出力先を指定します。  
「OK」ボタンを押します。



### ●メール送信します 2

メールソフトが起動します。上記で設定したファイルが添付ファイルとなります。

メールソフトを操作して送信を行ってください。



## 5 テンプレ編集

アシスト図面の設定(レイヤ名・線色等)を編集し、オリジナルのアシスト図面が作成できます。  
受発注者協議事項の反映や各都道府県の CAD 製図基準(案)に対応できます。

### ●アシスト図面を開きます

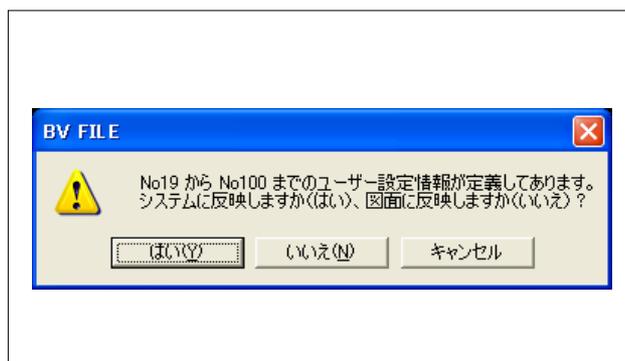
[ファイル]-[開く]で編集したいアシスト図面を読み込みます。

アシスト図面を読み込むと右図のメッセージが表示されます。ユーザーファンクション設定(レイヤ名・線色等)をどこに反映させるかの画面です。

「はい」を押すと CAD システムに反映されます。

「いいえ」を押すとこれから編集する図面に反映されません。

今回は「いいえ」を押してください。



### ●コマンドの選択(テンプレ編集)

[システム]-「システムファンクション」  
-「テンプレ編」を選択します。



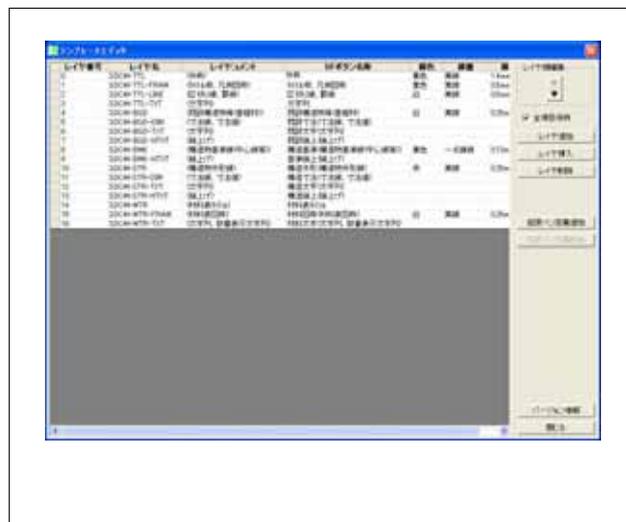
### ●アシスト図面を編集します

「テンプレートエディタ」が表示されます。  
ここで表示される項目はアシスト図面に設定されている項目です。

各項目をダブルクリックして名称を変更します。  
線色・線種・線幅はシングルクリックして選択します。

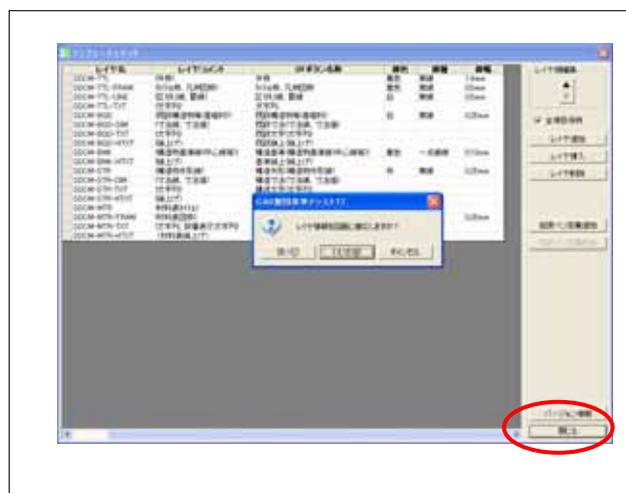
レイヤ順序変更・追加・削除・挿入は右のボタンで行います。

「拡張ペン定義追加」は 1 つのレイヤに複数の線色・線種・線幅を設定する場合に利用します。



### ●終了します

「閉じる」ボタンを押します。  
「はい」ボタンを押します。  
設定が図面に反映されます。



### ●アシスト図面を保存します

[ファイル]-[名前を付けて保存]を選択します。  
別名で保存します。

工事によってこの編集したアシスト図面を利用して、レイヤ振分けや図面チェックを行ってください。

